



## どうして富洲原町立なの？

今回は、富洲原地区の皆さんにとっても馴染みの深い、戦前の昭和を象徴する建物をご紹介します。「富洲原町立尋常高等小学校講堂」と聞いても、ピンとくる人は少ないかも知れませんね。現在の富洲原小学校講堂の完成当時の名称です。

それでは、どうして「富洲原町立」だったのでしょうか？それは、昭和11年の完成当時はまだ四日市市との合併前で、この地は富洲原町だったからです。下の写真のように、講堂の南面ベランダやプラタナス（鈴懸の木）の様子が今と昔では少し違って見えます。

町議会議事録に、「年々増加ノ児童ヲシテ天性の技芸機能ヲ發揮セシメ指導強化ヲ為スベキ総合施設」と講堂について触れられており、施設整備にかける当時の思いが感じられます。

昭和16年の四日市市との合併で、公的施設が「富洲原町立」から「四日市市立」へと変わるこの時期は、女子教育充実への機運も高まってきた時期でもあり、「富洲原町立実科高等女学校」（後に四日市高等学校と合併）の写真にも、生徒たちの真摯でひたむきな姿勢がうかがえます。

まさに、戦前の昭和は富洲原における教育の充実期といえます。



旧称 富洲原町立尋常高等小学校講堂



富洲原町立実科高等女学校実習風景



富洲原町立実科高等女学校授業風景

## 富洲原地区 R2/1/1現在

### 面積

2.04 Km<sup>2</sup> (市内24地区中で最小)

### 世帯数

3,881 世帯

### 人口

8,653 人 (男性 4,286 人・女性 4,367 人)



シリーズ

# 昭和の富洲原



以前の店舗

菓匠庵  
**平和堂**  
(富田一色地区)

名古屋両口屋是清で修業した初代店主が、暖簾分けされ昭和21年この地に創業しました。地域に愛され、もっと美味しい和菓子を作りたいという初代店主の思いを引き継ぎ、店舗を発展させた2代目。そして、3代目は、新しい感覚を採り入れながら和菓子文化の伝承に努めています。



令和2年2月

## 富洲原分団車庫が 新しくなりました！

富洲原分団は、火災時の消火活動をはじめ、防災訓練や小学生対象の防火講座など、地域に密着した活動を行っています。「褒めよたたえよ団員同士」をモットーに、渡邊分団長はじめ15名の団員が富洲原の安全を守っています。



四日市市消防団操法競技大会  
(平成30年7月 3位入賞)

## 編集委員

- |      |    |    |
|------|----|----|
| 委員長  | 荻子 | 正明 |
| 副委員長 | 酒井 | 寛  |
| 委員   | 水谷 | 武彦 |
| 〃    | 黒田 | 公雄 |
| 〃    | 伊藤 | 則夫 |
| 〃    | 福田 | 修二 |
| 〃    | 中西 | 典子 |